お知らせ

MMWIN事務局からのお知らせです

薬薬連携ツール　関連続報

2024年9月27日発行MMWIN通信vol.78および12月27日発行vol.79では、MMWINを活用した薬薬連携ツールがトレーシングレポートの送受信やがん薬物療法における連携の一助となっていることをご紹介しました。

薬薬連携ツールは、現在「Access版」と「Excel版」の２種類のシートを運用することが可能です。特に「Excel版」は、薬剤部門以外の文書もイメージ作成することが出来るため、汎用性の高いシステムとなっております。

この度、富谷市の仙台リハビリテーション病院様でも当該ツールを導入しました。運用開始に向けて、薬剤室室長 遠藤武弘様に、活用のイメージなどを伺いました。

仙台リハビリテーション病院
薬剤室 室長
遠藤　武弘　様

現在、病床の機能分化により、患者さんは病期により(高度)急性期から回復期、慢性期あるいは介護施設において適切な治療・看護・介護を受けることができる仕組みになっています。そのシステムの中で、**施設間の連携をよりスムーズに行なうことは、患者さんにとってメリットになる**と考えていました。薬薬連携ツールの話を聞き、そのような連携が可能になると思い、導入しました。

具体的には、今後ポリファーマシー対策において活用したいと考えています。急性期病院においては入院期間が短く、その間でポリファーマシー対策を行うのは難しいのが現状です。急性期病院と私たち回復期病院が連携し急性期病院からの薬剤や患者情報あるいは担当薬剤師からの要望等を共有することで、持参薬の服用意義や効果、継続を評価することができ、質の高いポリファーマシー対策を行うことができるのではないかと思います。

高齢の患者さんは、身体機能の低下に伴い薬による副作用のリスクが大きくなる傾向にあります。病状の回復とともに当初処方された薬剤の継続可否を評価する必要があり、漫然と服用されることのないように薬剤師が関わっていくことが重要であると思います。患者さんは退院すると住み慣れた地域に帰って行きますので、かかりつけ薬局の薬剤師に対して、しっかり情報を渡していくことも、連携の上で重要だと考えています。

（実際にツールを操作してみて）**思ったよりは簡単に出来る**と感じました。

まだ実用には至っていませんが、このツールを使って、地域の薬局にも情報を発信していきたいと思います。

これまでの薬薬連携ツールは、薬局側で導入し作成した文書を処方元の病院へ送る連携がメインでした。
今回ご紹介した病院用薬薬連携ツールにより、**病院側から薬局へ向けた新しい情報連携**が期待されております。

一般財団法人　医療介護ネットワーク推進財団ＭＩＹＡＧＩ
〒980-0872　仙台市青葉区星陵町1-1東北大学病院仮管理棟1F

【事務局】
TEL 022-725-8411　FAX 022-725-8514
E-mail：office@mmwin.or.jp　URL：http://mednetmiyagi.or.jp/
【サポートセンター】
TEL：022-399-6880

MMWIN通信は
最新号からバックナンバーまで
当財団ホームページに掲載しております

当財団からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。
『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般財団法人　医療介護ネットワーク推進財団MIYAGIの登録商標です。
※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。

全医療・介護・福祉分野、職種が想いをひとつに「オールみやぎ体制」でみやぎをつなぎます

MMWIN（エムエムウィン）通信 NEWS
みんなのみやぎネット

2025 3.28 vol. 80

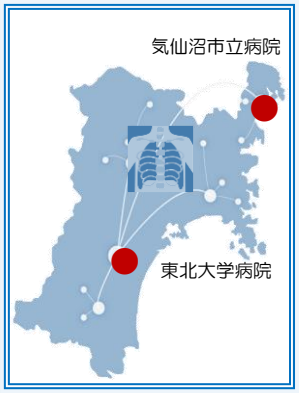
発行：医療介護ネットワーク推進財団MIYAGI

患者さんの待ち時間短縮に「画像受渡機能」活用！

遠く離れた医療機関間の患者紹介時において、患者さんは紹介先施設までの移動時間に加え、受診前の待ち時間もあり、かなりの負担になっているという現状があります。この対策として、気仙沼市立病院様と東北大学病院様では、MMWINのネットワークを介して検査画像データを電子的に授受し、患者さんの負担軽減を図る取り組みを2024年12月から開始されました。

それ以前、気仙沼市立病院様ではメディアを事前に郵送するという対策を行われておりましたが、MMWINでの運用により郵送費用の削減もでき、施設と患者さんの双方にメリットを提供できました。

	従来	画像受渡機能
媒体	メディア（CD-R、DVD等）	画像データ
手段		
特徴	・患者さんの時間的な負担が大きい （自宅からの移動時間＋診療までの待ち時間） ・メディア作成が必要 ・事前送付時にはメディア発送費が発生	・患者さんの待ち時間を軽減できる ・画像撮影後から即データ受渡可能 ・メディア作成、管理が不要 ・特定の環境下においてのみ利用可



【気仙沼市立病院スタッフ様の声】

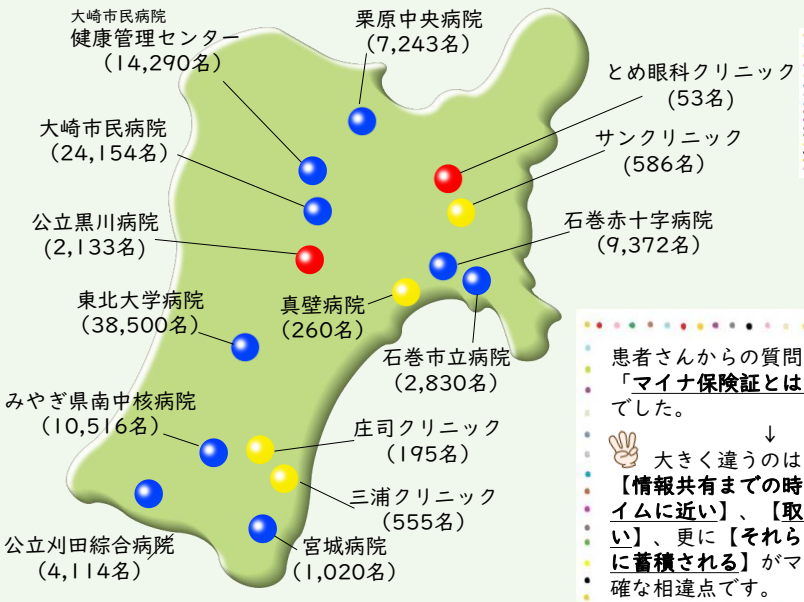
運用スタート当初は、操作等に慣れていないこともあり、画像を送ったつもりが届いていないケースもありました。ここ1ヶ月間で18件の受渡を行うことが出来たことで、今では順調に進んでいます。今回導入したMMWINの「画像受渡機能」を活用するにあたり、運用の見直しをすることで業務の明確化と共有が図れ、部門間の連携もスムーズとなりました。

【東北大学病院スタッフ様の声】

患者さんが持参する画像は、データ量が多いため受診当日に1時間以上お待たせするケースが多々あります。患者さんの負担に加え、画像データを取り込んでいるスタッフや各診療科スタッフも慌ただしくなってしまいます。事前に画像データを取り込むことで患者さん、病院スタッフそれぞれの負担軽減につながっています。現在は平日のみの運用ですが、将来は休日・夜間などの救急搬送時などにも対応できないか院内で前向きに検討しています。

2024年度 MMWINブース活動報告

MMWIN事務局では、ご要望をいただいた施設へ専属スタッフを派遣し、患者さんへMMWINの加入案内（短期ブース開設）を行なっております。常設ブースと併せて、今年度加入案内を行なった施設と、総紐付け患者数をご報告いたします。



患者さんからの質問で一番多いのは、「**マイナ保険証とはどうちがうの？**」でした。

↓

大きく違うのは三つ。MMWINは**【情報共有までの時間がほぼリアルタイムに近い】**、**【取り扱う情報が多い】**、更に**【それらの情報が半永久的に蓄積される】**がマイナ保険証との明確な相違点です。

【MMWINブース開設のメリット】

①施設に代わってMMWIN専属スタッフが患者さんに丁寧な説明を行なうので、**患者さんの理解が深まり、安心して今後の通院継続に繋がります。**

②**紐付け患者数が増える**とともに、施設職員への周知や操作のフォローを実施するため、**MMWINの有効活用が可能となります。**

③例えば透析患者さんが転院する際は、施設間で診療情報などのFAX枚数がかなり多く、業務負担が大きいとの声を伺います。**患者様の情報をMMWIN上で共有することで、FAX業務の大幅な軽減が見込まれます。**

【MMWINを活用した連携に、患者さんの加入は必要不可欠】

MMWINの専属ブーススタッフ派遣は**無料**です。

「基幹病院の診療情報を参照したい」「万が一に備え、患者さんの診療情報を保存しておきたい」「自院の紐付け患者を増やし、FAXの負担を減らしたい」・・・

まずはお気軽にお問い合わせください。曜日や期間などは勿論ご相談に応じさせていただきます。

現在、自院の紐付け患者が何名いるか、情報がどんな風に見られるか、確認してみませんか？

脳卒中および脳腫瘍、頭部外傷等の脳疾患連携の取組について－ 東北大学病院 －

2024年度第3回みやぎ脳卒中地域連携パス会議（以下パス会議）が2025年2月20日にWeb開催されました。パス会議は年3回開催しており、急性期、回復期、生活期の各施設の医師、看護師、リハビリスタッフ、社会福祉士の方々が参加されています。会議に参加することで連携先への理解が深まり、連携業務の改善や情報共有の質の向上が期待されます。第1回パス会議では回復期病院より脳卒中以外の脳疾患でも 急性期病院と連携したいとの要望があり、今回は脳腫瘍や頭部外傷などの専門疾患が多い特性がある東北大学病院様にご講演いただきました。

・～・～・～